

吉野ヶ里町立東脊振小学校

学校教育目標

# 校長室だより 夢に向かって輝く児童の育成

児童数 360名 No.90

令和4年1月13日 文責 校長 林 寛



ポカもん

新年明けましておめでとうございます。今回の冬休みやお正月はいかがだったでしょうか。東脊振小では、11日（火）に感染症の感染拡大防止を考慮しTV放送で始業式を実施し、3学期をスタートさせました。子供たちが、元気な顔を見せてくれたことがとてもうれしかったです。

始業式の中では、「目標をたてよう」という話をしました。すでに、お家で決めている子供もいたと思いますが、各学級で今の学年のまとめとしての3学期の目標や、進級・進学を見据えた今年の目標を決めて、その達成に向けて今学期を過ごしてほしいと思います。学校でも家庭や地域と協力して、子供たちの目標やめあての達成をサポートしていきます。本年もどうぞよろしくお祈いします。



## 引き続きよろしくお祈いします

新型コロナウイルスの感染については、流行の第6波が始まりました。これまでにない勢いで各地で感染が広まっています。寒さが厳しくなる時期ですが、学校でも引き続き、マスクの着用、手洗いうがいの励行、換気をし3密を避けながら教育活動を進めていきます。そんな中でも今後、感染対策をしていたとしても自分自身や自分の身近な人が感染してしまったり、感染の疑いとなってしまうりするリスクは続くと思われます。私たちは、同じ地域に住んでいる仲間です。このような状況の中で病気への不安に加え、偏見による悲しみや苦しみを更に抱え込むことがないように、子供も大人も関係なく、お互いを思いやり、励まし合えるような学校や地域にしていきたいと強く思っています。ご理解とご協力をお願いします。



## うまくいかななくても・・・

年末年始にかけて、サッカー、ラグビー、バスケットボール、バレーボール、駅伝、とスポーツの全国大会が開催されていきました。高校生や大学生、社会人といった各種別の大会など様々です。地元の選手やひいきのチームなどについて感情移入をして応援してしまいます。どの大会も最後に勝ち残るチームは1つだけ。ほとんどのチームが負けていく中で、負けたチームや人に焦点をあてたテレビの番組や雑誌の記事を目にします。負けた悔しさを口にする一方で、負けを受け入れ次の活動の糧にして、目標を切り替えていくという清々しい言葉や周囲への感謝の言葉を良く見ました。負けや失敗から学ぶことのほうが、勝ちから得ることよりも大きいかもしれないと思ってしまう。学校生活の中でも、失敗したり競争で負けたりする場面はよくあります。そんな時に、うまく乗り越えたり切り替えたりしながら、次の成長につなげていくような逞しさを東脊振小の子供たちにも身につけてほしいと思います。



-特別支援（ふれあい）学級を担任している中村ゆかり教諭が1月15日より産前休暇を取ります（元気な赤ちゃんの誕生をみんなでも楽しみにしています）。中村教諭に代わり、1月17日から森麻実（もりあさみ）講師が勤務することになります。どうぞよろしくお祈いします。